

まちづくり懇談会議事録【公開用】

日 時：令和元年 11 月 11 日（月）18 時 25 分～20 時 08 分

場 所：湯地公民館

出席者：13 人

1. 開会
2. 町長挨拶
※配布資料確認および日程説明
3. 今年度のまちの動き（資料①）
質疑
4. これからのまちづくり（資料②）
5. 懇談
6. その他
(1) 出前型政策・施策説明会「栗山町のまちづくり」について（資料③）
全体質疑
7. 閉会

《質疑応答》

【栗山赤十字病院について】

町長：

日赤病院は、とても大きな問題になっている。広域で連携して総合的な病院を作ってはどうか、などの意見をいただいている。病床数を減らして規模を縮小させ、存続する方法もある。町の病院は維持していきたい。栗山赤十字病院改築等検討委員会で今年度中に方向付けをしていきたい。

町民：

新聞報道されている統合が必要な病院に日赤病院が載っていた。

福祉総括：

2025 年までに病院再編をし、国に改善計画を提出する準備をしていかなければならない。9 月下旬に北海道で再編・統合が必要な病院が一方的に公表された。一般病棟（急性期病棟）が調査対象であり、南空知の病院が多く入っている状況であり、公表された病院・自治体は困惑している。南空知の病院はどこも経営が厳しく老朽化も進んでいる状況。

今年度中に栗山赤十字病院改築等検討委員会で方向付けをしたいと思っている。

町民：

報道されることに対して国から説明はなかったのか。病院の統合が必要というのであれば、国から補助があってもいいのではないか。

町長：

国からの説明はなかった。補助はないと思う。

町民：

日赤病院は、中身が悪いから通わないのではないか。日赤病院はどう考えているのか。

町長：

日赤本部の部長は、町が整備をしてくれれば存続していけると話していた。

町民：

院長が退職することが決まっている。医師不足の状況などは何か聞いているのか。

町長：

病院の対応に関しては、改築に合わせて是正を促していくことになる。方向付けを決めたとしても7、8年かかるので、その間に診療科目や医師の問題などを精査していく。

町民：

栗山赤十字病院改築等検討委員会の中に、日赤病院の理事の方も入っているか。

福祉総括：

平成22年から、町、日赤病院、他の医療機関などで組織を作り、検討を行っている。いろいろな厳しい意見をいただいている。医師の確保は難しい問題もある。いろいろな情報を収集しながら慎重に進めていきたい。

町民：

私は日赤病院で産まれた。存続させてほしい。

【北海道介護福祉学校について】

町民：

介護福祉学校の存続について、利用料の改定などが書かれているが生徒は集まるのか。町の補助で莫大な税金を使っているが、存続していけるのか。

町長：

生徒を40人確保できても、3,000万円の赤字になる。介護福祉学校の存続は、将来的に必要な学校なので、その持ち出しは必要なものと考えている。これでもダメであれば、学校の存廃についても考えていかなければならない。

教育長：

介護福祉学校の学費は民間と比較すると一番安い学校になる。生徒募集については、民間の力も借りてさまざまな手段を使って、募集を呼び掛けている。しかし、介護福祉士は厳しい環境から人気がないのが現実。介護福祉学校の卒業生は現場で活躍している。税金を投入して介護福祉士を養成していることが、町の財政を圧迫することになれば、廃止の決断もしていかなければなら

らない。地域の方々に介護福祉士のノウハウを還元していくような学校経営をしていかなければならない。

町民：

高齢者大学で介護福祉学校の見学に行ったことがあるが、福祉施設の体験発表などを行っているのを見た。町として、もっと介護福祉学校のPRや応援をしてほしい。

町民：

学生数を減らして、職員を半減させるとのことだが、教職員の知識や経験を有効に活用してほしい。

町長：

町の福祉の分野で活用していきたいと思う。

【栗山町の食育について】

町民：

町の課題、難題の話聞いたが、どこの町も同じ悩みを抱えていると思う。町民が一つのチームになって「ふるさととは栗山です」というようなおぼろげなテーマではなく、はっきりとした目標を定めていくべき。それは、食育だと思う。栗山小学校の6年生からコロッケ作りの相談を受けた。真剣なまなざしの子どもたちの目を見て、町も捨てたものではないと思った。そういった子どもたちが、町から流出していってしまうのは本当にもったいない。おいしい食べ物で町を盛り上げていければ良いと思う。町でしかできないものを作っていければ良い。

町長：

栗山町の食育について、まちづくりの一環として取り組んでいる。「ふるさととは栗山です」という言葉が共通の理念であると思っている。子どもたちが胸を張って「ふるさととは栗山です」といえる町づくりをしていく。

町民：

「ふるさと」と思ってもらえるもの、それは食べ物・味覚だと思う。そういったこともわかるようなテーマにしていった方が良い。

町長：

基幹産業の農業をどのように守っていくかが、一番の課題になってくる。家族を含み約50人近い新規就農者が町に来てくれている。農業後継者に対していろいろな取り組みをしている。地域おこし協力隊が「若者のまち くりやま」を合言葉に頑張っている。将来的には、農産物を販売する道の駅なども考えていきたい。

町民：

12月26日に、食育子ども食堂を計画している。ご協力をお願いしたい。

【その他・お礼】

町民：

街灯が切れているとき、連絡をするとすぐ対応していただいて本当に助かっている。お礼を申し上げます。